

## アーバントリップ実行委員会

## 第82回 JIA アーバントリップ

—アーティストと職人～技術と発想—

住宅部会  
三沢 護

昨年11月30日に第82回目になる「アーバントリップ」に参加しました。年に数回あり、残念ながら見逃すこともあります。今回は住宅部会の中村さんからメールをいただき見逃さずにすみしました。いつも多くの人が参加しており毎回お会いする方もいる和やかな見学会です。

最初は隈研吾氏設計の「サニーヒルズ」です。例の「地獄組み」で、表参道を少し入った通りを歩いていくと、ホウ酸で防火処理を施した東濃檜60角の建築が突然街に現れます。外観をひとしきり見学した後に内部も見せていただきました。木を表層の意匠だけでなく構造体として実現させていることに驚かされます。屋上の手摺として組んでいるところを触ってみてもしっかりと安心してあります。担当者から防火や避難などの法的処理、行政との打ち合わせに時間がかかった貴重な話をうかがえました。ただメンテナンスがかかりそうですが、当日も植木職人が手入れをしているのを見て大事に使われていることが分かる建物でした。

次に向かったのは坂倉準三氏設計の「岡本太郎記念館」です。川崎にある美術館は知っていましたが、南青山の一角に記念館があるとは知りませんでした。ブロック造に木造小屋組の明快な建築で、内外に多くの作品が展示してあり建物を引き立てています。ここをアトリエとして、「太陽の塔」などが生まれていったと思うと感慨深いものがあります。設計を依頼したのはパリ時代の朋友・坂倉準三氏。以前JIAで阿部勤、室伏次郎両氏に坂倉事務所の初期を聞く機会があり懐かしく思いました。60年

以上経た近代建築が都会の中に残っていることに驚きです。今度1階の喫茶店でコーヒーでも飲みながらゆっくり鑑賞したいものです。そんな環境にあり、ゆったりした時間が流れる建物です。

最後に久米設計の「東京都庭園美術館」です。白金台の広大な緑地内に西洋庭園、日本庭園、芝生広場がある一番奥にあり、かつての朝香宮邸である本館に増築して新館が設けられています。新館は素材の単純化や本館と競合しないデザインなど、本館に寄り添うように控えめに作られているのが印象的でした。本館は都指定有形文化財であるため現行法適用除外を受けての改修になります。設計担当者から細かい話を聞きましたが、そんなところまでと思われるところが多々あったようです。行政の建築関係部署、文化庁、その他多くの関係部署との調整に気の遠くなる時間と根気が必要だったことは想像に難くありません。それを乗り越えて建築にしていくのはさぞかし苦勞の連続だったと思います。夕暮れ時になって照明が灯されると本館のオレンジ色の明かりと新館の白い明かりに庭園灯が加わり幻想的で都心にいるのを忘れさせてくれたところで、今回のアーバントリップは終了になりました。

東京の街中を建物を見ながら歩くのも、そうあることではないので楽しめましたし、途中東大の学食で昼食を取ったのも印象に残りました。毎回思うのですが、なかなか見られない建築を設計者自らの解説付きで見学できる機会はそうないと思います。委員の方々の努力に感謝します。



隈研吾氏設計「サニーヒルズ」



久米設計「東京都庭園美術館」夜景